

# 北海道における日本体育協会 (J.A.S.A.) 公認スポーツ指導員の活動状況の実態

杉 山 登

## 目 次

- I はじめに
  - II 調査のねらい・内容・方法・時期
  - III 調査結果の概要
  - IV 調査結果の考察
  - V 総 括
- 付. 調 査 票

## I はじめに

社会変化と関連し、わが国の体育・スポーツの現状は、社会体育の振興、普及、整備が緊急な話題となっている。いうまでもなく、社会体育の振興、普及にとって指導者は重要な側面を担い、その占めるウエイト、影響力は近年ますます大きくなってきている。

この社会変化に対応して数年来、日本体育協会をはじめ各スポーツ競技団体など公共機関、民間団体では、社会体育指導者づくりに取りくみ指導体制がすすめられてきたのであるが、社会体育指導者の機能は全体としてみれば、施設や組織（グループ）の状況からして、それは単にスポーツ技術指導にとどまらず、スポーツ活動が実践されるための諸条件の整備も含まれ、極めて多様化し、複雑化してきている。ここに社会体育指導者の社会的、機能的な位置づけ、役割りの確立などが呼ばれる理由があるように思われる。

今回の日本体育協会の調査報告書<sup>(1)</sup>により、本道におけるスポーツ指導者

---

(1) 日本体育協会：スポーツ指導者の実態調査報告（スポーツトレーナー1級・2級、スポーツ指導員）昭和51年3月。

(1級・2級スポーツトレーナー、スポーツ指導員)の実態の概要を把握できたのであるがしかし、特に問題化してきたところの、スポーツ指導員資格と他資格との関連における指導活動に関しては、今回の報告書からは十分にその実態を把握することは困難の様に思われる。今後、スポーツ指導員が機能的に十分に活動してゆくためには、このあたりの実態を調査してみる必要性であると思われるのである。

上述の理由から北海道体育協会普及委員会では、スポーツ指導員の現状と問題点に関して再調査することになった。

調査の対象は、本道における日本体育協会認定のスポーツ指導員であり、調査内容については、若干の設問のほかは日本体育協会の調査事項によった。また、特に指導活動を3つのタイプに区分し、日本体育協会の資料を掲載し対比させて集計した。

## Ⅱ 調査のねらい・内容・対象・方法・時期

### 1. 調査のねらい

日本体育協会認定の北海道スポーツ指導員の現状と問題点を明らかにし、道民スポーツの振興、普及の指導体制確立のための資料をうることを目的である。

### 2. 調査の内容

調査内容として第1にスポーツ指導員資格からみた指導活動のタイプを明らかにし、第2に指導員の個人的属性としての性、年令、職業等について、第3に過去のスポーツ歴としてスポーツ団体の役職、競技大会への参加状況、競技活動年数、スポーツ経験と指導種目の関係、専門種目についてとらえ、第4に指導歴で指導してきた指導対象、指導経験年数、持っている他の資格・役職などについて調べた。つぎに第5として現在の指導活動について、指導の主な対象、主な指導活動、指導日数、指導の形態、1回の指導時間、指導活動の場所などについて調査し、さらに第6として、指導謝金の問題として、指導謝金の有無とその金額、謝金の内容、謝金の出所、謝金の

制度化の現状などについてみた。また、これと関連して第7として、指導活動に対する自己出費についてもとらえた。第8として、資格の活用、第9に資格取得の効果、第10に指導活動についての要望、意見などに関して調べ、第11に資格取得の経緯に関して調査した。

### 3. 調査の対象

日本体育協会が認定した本道におけるスポーツ指導員をすべて対象とした。

### 4. 調査の方法

スポーツ指導員認定者に対して郵送法を用いた。

### 5. 調査の時期

昭和51年5月17日から昭和51年6月5日までの約2週間である。

## Ⅲ 調査結果の概要

### 1. 指導活動タイプ・性別・年令別・職業構成

#### (1) 指導活動タイプ

スポーツ指導員としての資格の立場で指導しているものは少なく、特に男子は女子に比べて16.0%と低率である。スポーツ指導員が十分機能していないことが指摘される。

#### (2) 性別構成

本道における女子指導員の少なさが指摘される。また、男子においても決して多いとはいえない。

#### (3) 年令構成

全体的に男子では30才代が多く、ついで40才代、20才代となっている。タイプ別では、男子はAタイプに20才代が多く、B、Cタイプでは30～40才が多くなっている。女子では全体的にみても、タイプ別にみてもそれぞれ20才代が50%を占めている。

#### (4) 職業構成

男子は全体的には、公務員、小学校・中学校教員、会社員が多い。タイプ

別では、Aタイプは公務員、会社員が多く、B、Cタイプでは公務員、小学校・中学校教員が多くなっている。女子では全体的にみて主婦が多かったが、タイプ別では特にAタイプは職業が多様である。

## 2. スポーツ歴

### (1) スポーツ団体の役員

男子では市町村競技団体の役員が多く、ついで市町村体育協会、体育指導委員関係となっている。タイプ別にみても、Aタイプでは、市町村体育協会役員が多く、B、Cタイプでは市町村競技団体役員のものが多い。また、Aタイプに役職をもたないものが24.4%いる。女子では、全体的にみて役職をもたないものが47%を占めており、タイプ別ではAタイプで役職をもたないものが71.4%を占めている。

### (2) 参加競技大会

競技大会への参加は男子では、道・市町村大会の参加が多く60%を占めている。女子は全国大会の参加の割合が日本体育協会（以下日本協という）調査結果と比べて高い傾向がみられる。

### (3) 競技活動年数

男子では全体的にみて競技活動年数は、かなり多様である。タイプ別で見ると、A、B、Cの順をおって競技活動年数が多くなっている。女子では全体的に10～15年が最も多く、タイプ別では男子と反対に、Cタイプの方が競技活動年数が低い。

### (4) スポーツ経験と指導種目の関係

男女とも70%以上が自分の経験した種目が指導の対象となっている。タイプ別では、男女ともCタイプに自分の経験以外の種目を指導しているものが30～50%いる。

### (5) 専門種目

専門種目は男子で24種目、女子では8種目と非常に広汎にわたっている。男子ではバレーボール、バドミントン、スキー、陸上競技、卓球、野球、テ

ニス, 水泳, 女子ではバレーボール, 体操, テニス, 水泳というように代表的な大衆スポーツ種目のものが比較的多い。

### 3. 指 導 歴

#### (1) スポーツ指導歴の主な対象

男子では全体的にみると, 地域スポーツクラブが最も多く, ついで学校の運動部となっており, 地域スポーツクラブとの結びつきが強い。タイプ別では特にA, Bタイプがその傾向が強い。女子は男子と同じ傾向である。

#### (2) 指導経験年数

男子は全体的に5~10年が多い。タイプ別では, Aタイプが10年以下が71%と指導経験年数が低い。女子も全体的に, またタイプ別にみても5~10年が比較的多く男子と同じ傾向である。

### 4. もっている他の資格や役職

(1) 男子は競技公認審判員が最も多く, スポーツテスト判定員, 体育指導委員, 競技公認指導員の順となっているがスポーツトレーナーとの結びつきが少ない。タイプ別では, Aタイプでは競技公認審判員, スポーツテスト判定員との兼務が多く, 体育指導委員, スポーツ少年団指導員との関係が比較的強い。女子では, 全体的にみて競技公認審判員, 競技公認指導員との兼務のものが多。また, 体育科教員免許をもつものが35.3%と, その関係はかなり強い。タイプ別では, A, Bタイプで競技公認審判員, 体育科教員免許との兼務が多く, Cタイプでは競技公認審判員, 競技公認指導員との兼務のものが多。また, 女子では, 2級スポーツトレーナーとの関係は比較的強い。

### 5. 現在の指導活動

#### (1) 指導の主な対象

男女とも全体的に, またタイプ別にみても婦人のスポーツクラブ, 一般成

人のスポーツクラブ、勤労青少年のスポーツクラブなど地域のスポーツクラブと結びつく傾向がみられる。特に婦人のスポーツクラブを指導の対象としているものが最も多い。

## (2) 主な指導活動

全体的に男子は初心者技術指導が79.4%、地域組織の普及育成が63.3%と多い。タイプ別ではAタイプは初心者技術指導と経験者の技術指導が多いのに対して、B、Cタイプでは、初心者技術指導と地域組織の普及育成が主な指導活動となっている。女子では全体的にも、タイプ別にみてもA、B、Cとも初心者技術指導が中心であり、ついで経験者の指導となっている。男女とも競技選手の技術指導は低率である。

## (3) 指導日数

男女とも週1～2日が最も多い。タイプ別にみても男女とも同じ傾向を示している。

## (4) 指導の形態

男子では全体的にみて69%、タイプ別にみても約63～77%が定期的に指導している。女子では全体的に65%が定期的に指導しており、タイプ別で特にCタイプは66.7%が不定期に指導に従事している。

## (5) 指導時間

男子では全体的、タイプ別にみても1～2時間、2～3時間とそれぞれ約50%を占めている。女子は男子に比べて1～2時間が最も多い傾向を示している。

## (6) 活動の場所

男子は全体的、タイプ別にみても公共施設、学校施設を使用する場合が多く、その使用も70%が定期的使用である。女子は公共施設使用が多く、77.3%が定期的使用となっている。

# 6. 指導の謝金

## (1) 指導謝金の有無とその金額

男女とも日本協調査結果と比較すると、謝金をもらっているものの割合がやや高い。特に女子はその傾向が強い。もらっているものの金額は男女とも1,000円以下が大部分を占めている。

## (2) 謝金の内容

男女とも全体的、タイプ別にみても純粋な謝金としてもらっているものが最も多く約54～76%となっている。

## (3) 謝金の出所

全体的、タイプ別にみても、男子では行政当局からのものが最も多く、女子では行政当局からの謝金も多いが、また、クラブ会員などから出る謝金も多い傾向がみられる。

## (4) 謝金の制度化

男女とも全体的、タイプ別にみても約50～60%が制度的に決められている。

## (5) 指導活動についての考慮

謝金をもらっていないものの場合の指導活動上の考慮については、日体協調査結果と比べると、男子52.4%、女子50%が考慮されておらず低率を示している。

## 7. 自己支出の有無とその内容

(1) 全体的に自己支出は、男子58%、女子64.7%であり、特に女子では日体協調査結果とは反対に支出するものが多い傾向を示す。

出費の内容は男子は「もっぱら支出するだけ」が50%を占めている。女子は「謝金の一部を支出する」「謝金より支出が多い」がそれぞれ36%となっている。

## 8. 資格の活用

(1) 全体的には「あまり生かしていない」とするものが男子の44.5%、女子の41.2%と最も多い。タイプ別では男子のA、Bタイプに「大いに生か

している」が約 50% それぞれいるのに対して、Cタイプでは「あまり生かしていない」「無効に等しい」とするものが多い傾向がみられる。女子のA, B, C各タイプにもその傾向がみられる。また、「あまり生かしていない」「無効に等しい」の理由として、「資格が必ずしも十分理解されていない」とするものが最も多く、「スポーツ指導員としての仕事ははっきりしない」がつづいている。

#### 9. 資格取得の効果

(1) 資格取得の効果について全体的には、男子が 64.4%, 女子が 52.9% とその効果を認めている。その理由として、「資格の向上」を挙げるものが最も多い。タイプ別では男子のA, Bタイプ, 女子のAタイプに資格取得の効果を認めるものが多い傾向がみられる。

#### 10. 指導活動についての要望

(1) 要望は非常に多様であるが、要望の多い事項を挙げると男子では「講習会の開催」56.9%, 「情報の交換」59.1%, 「指導員の位置づけ」47.7%, 「連絡機関の設立」45.2%, 「行政当局の援助」42.7% が主なものであり、女子も男子とほぼ同じ傾向であるが、ただ男子では低率であった「災害補償制度の確立」が 52.9% と多かった。

#### 11. 資格取得の経緯

(1) 全体的に男女とも市町村教育委員会関係をとおしてのものが多く、女子で「個人」というものが 23.5% いる。職域関係からのものは極めて少ない。

### IV 調査結果の考察

#### 1. 調査票の配布と回収

調査票の配布と回収状況は Table. 1 の示す通りであり、全体で 67.4% の回収率であった。内訳は男子 66.1%, 女子 53.1% で女子の回収率は低い。

Table. 1 回 収 率

区 分	調査対象者数	回 収	回 収 率
男 子	410	281	66.1%
女 子	32	17	53.1%
計	442	298	67.4%

2. 指導員資格と指導活動の関係

Table. 2 で示すように、A、B、Cの3つのタイプに区分したが、スポーツ指導員としての資格で指導しているAタイプが男子では16%と極めて少ない。しかもその中の半数のものがTable. 10の「資格の活用」でもわかるようにスポーツ指導員として活動は消極的であり、実際にその資格で指導しているものは非常に少ないことがうかがわれる。また「他の資格と兼ねた立場」のBタイプと「ほかの資格・役職で指導する機会が多い」とするCタイプとあわせると84%となる。男子に比べて女子ではAタイプは41.2%と高いが、60%がBタイプで占められている。以上のようにスポーツ指導員資格

Table. 2 資格と指導活動との関係

区 分	タイプ	N	%	合 計	
男 子	スポーツ指導員としての資格の立場で指導している機会が多い。	Aタイプ	45	16.0	281人
	スポーツ指導員と、ほかの資格・役職とを兼ねた立場で指導している機会が多い。	Bタイプ	109	38.8	
	スポーツ指導員としてでなく、むしろほかの資格・役職で指導している機会が多い。	Cタイプ	127	45.2	
女 子	スポーツ指導員としての資格の立場で指導している機会が多い。	Aタイプ	7	41.2	17人
	スポーツ指導員と、ほかの資格・役職とを兼ねた立場で指導している機会が多い。	Bタイプ	4	23.5	
	スポーツ指導員としてでなく、むしろほかの資格・役職で指導している機会が多い。	Cタイプ	6	35.3	

(注) N=実数

を取得していながら十分に活用されていないことが指摘されよう。

### 3. 個人的属性

#### (1) 性別構成

日体協が認定したスポーツ指導員は昭和51年3月現在で全国で男子が10,787名、女子が1,338名の計12,125名<sup>(2)</sup>となっているが、女子スポーツ指導員の占める割合は約11%にすぎない。本道の場合をみると0.3%となり、女子スポーツ指導員の少なさが指摘される。また、男子にしても3.4%であり決して多いとはいえない。特に女子スポーツ指導員の育成が必要である。

#### (2) 年齢構成

Table. 3—(1)の示すように、全体的には男子は日体協調査結果と同じ傾向であり、30才代が最も多く、ついで40才代、20才代となっている。タイプ別でみると、Aタイプは46.7%と20才代が中心であり、ついでB、Cタイプでは30~40才代が多くなっている。女子は全体的にみても、また、タイ

Table. 3—(1) スポーツ指導員の年齢構成

区 分		N	20才代 以 下	30才代	40才代	50才代	60才代 以 上	不 明
男 子	日体協調査計	2042	26.0	35.6	26.4	8.2	3.4	0.7
	本 調 査 計	281	26.0	35.6	33.8	3.6	1.1	—
	A タイ プ	45	46.7	20.0	26.7	6.7	—	—
	B タイ プ	109	20.2	38.5	37.6	2.8	0.9	—
	C タイ プ	127	23.6	38.6	33.1	3.1	1.6	—
女 子	日体協調査計	569	31.6	29.3	33.2	4.9	0.2	0.7
	本 調 査 計	17	52.9	17.6	29.4	—	—	—
	A タイ プ	7	57.1	—	42.9	—	—	—
	B タイ プ	4	50.0	25.0	25.0	—	—	—
	C タイ プ	6	50.0	33.3	16.7	—	—	—

(注) N=実数、各項目の数字は実数に対する%を表わしている。以下各表同じ。

(2) 日本体育協会：前掲書，日本体育協会公認スポーツ指導員認定一覧 p. 112, 昭和51.

別にみても 20 才代がそれぞれ 50% 以上であり若い年齢層が中心となっている。

(3) 職業構成

Table. 3—(2) で示すように男子では全体的には公務員、小学校・中学校教員、会社員が多い傾向がみられる。タイプ別では A タイプは、公務員、会社員が多く全体の 53.4% であり、B、C タイプでは公務員、小学校・中学校教員が多い傾向を示している。女子では全体的にみても、タイプ別にみても主婦が最も多く、つづいて公務員となっている。商工自営、工員、商店員など各職域からの指導員の開発が望まれる。

Table. 3—(2) スポーツ指導員の職業構成<sup>(3)</sup>

区分	N	小学校教員	中学校教員	高等学校教員	大学・高専教員	公務員	会社員	工員・商店員	商工自営	農林・漁業	医師	自由業	団体役員	主婦	学生	無職	その他	不明	
																			①
男子	①	2042	4.5	7.5	5.7	0.4	34.6	21.3	2.7	12.3	4.3	0.2	0.8	0.6	—	1.3	1.7	1.5	0.4
	②	281	14.2	13.9	7.8	0.7	40.2	11.0	0.4	6.4	2.1	—	0.7	—	—	0.4	0.4	1.8	—
	③	45	6.7	13.3	2.2	—	35.6	17.8	2.2	11.1	6.7	—	2.2	—	—	—	—	2.2	—
	④	109	16.5	12.8	7.3	—	45.0	11.0	—	3.7	0.9	—	0.9	—	—	—	—	1.8	—
	⑤	127	15.0	15.0	10.2	21.6	37.8	8.7	—	7.1	1.6	—	—	—	—	0.8	0.8	1.6	—
女子	①	569	2.8	3.5	2.3	0.2	9.3	13.2	0.9	1.6	—	—	0.4	0.2	55.2	23.5	1.9	4.7	0.4
	②	17	5.9	—	—	—	17.6	5.9	—	—	—	—	—	—	52.9	—	11.8	5.9	—
	③	7	14.3	—	—	—	14.3	14.3	—	—	—	—	—	—	28.6	—	28.6	—	—
	④	4	—	—	—	—	25.0	—	—	—	—	—	—	—	50.0	—	—	—	25.0
	⑤	6	—	—	—	—	16.7	—	—	—	—	—	—	—	83.3	—	—	—	—

(注) 区分中 ①=日体協調査計 ②=本調査計 ③=Aタイプ ④=Bタイプ  
⑤=Cタイプ

(3) 表中の日体協調査計は、日体協が認定したスポーツ指導員のうち、全国都道府県の約 1/4 にあたる 12 都道府県を無作為に抽出し、これら都道府県に含まれる男子のスポーツ指導員のすべてを対象としたものであり、女子については、各都道府県別では対象者が少ないので、日体協が認定したスポーツ指導員のすべてを対象にしたものである。

## 4. スポーツ歴

## (1) スポーツ団体の役員

Table. 4—(1) でわかるように男子では全体的にみると日体協調査結果と同じ傾向を示しており，市町村競技団体役員が 56.9% と最も多く，つづいて市町村体育協会，体育指導委員となっている。タイプ別では，Aタイプでは市町村体育協会役員が 44.4% と最も多く，B，Cタイプでは市町村競技団体役員がそれぞれ 67.5%，57.5% と多い傾向がみられる。また，Aタイプでは役職をもたないものが 24.4% いる。女子では全体的にみると，役職のないものが 47.1% を占めており，日体協調査結果と同じ傾向を示している。タイプ別ではAタイプに役職をもたないものが 47.1% いる。

Table. 4—(1) スポーツ団体の役員（重複回答）

区 分	N	日本	都	市	地	中	都	市	小	体	そ	な	不	
		本	道	町	区	央	道	町	・	育	の	し	明	
		体	道	町	区	央	道	町	小	育	の	し	明	
		育	道	町	区	央	道	町	小	育	の	し	明	
		協	府	村	体	競	府	村	・	指	レ	明	明	
		会	県	体	育	技	県	村	中	導	ク	明	明	
			体	育	振	団	競	競	高	委	リ	明	明	
			育	興	体	体	技	技	体	員	エ	明	明	
			協	会	会	体	団	団	連	関	ー	明	明	
			会							係		明	明	
												明	明	
男 子	日体協調査計	2042	0.3	6.4	42.6	15.3	1.7	19.6	36.6	9.4	24.7	9.5	18.4	1.6
	本調査計	281	—	2.1	45.9	12.8	4.6	10.0	56.9	12.5	34.9	6.8	13.9	3.6
	Aタイプ	45	—	2.2	44.4	13.3	—	6.7	28.9	8.9	24.4	2.2	24.4	6.7
	Bタイプ	109	—	1.8	51.4	16.5	11.9	12.8	67.9	13.8	40.4	11.0	6.4	3.7
	Cタイプ	127	—	2.4	41.7	9.4	—	8.7	57.5	12.6	33.9	4.7	16.5	2.4
女 子	日体協調査計	569	0.2	1.2	16.9	9.0	0.9	5.8	9.3	3.3	11.6	11.2	47.1	5.4
	本調査計	17	—	—	5.9	5.9	5.9	11.8	35.3	—	5.9	5.9	47.1	—
	Aタイプ	7	—	—	—	14.3	—	—	28.6	—	—	—	71.4	—
	Bタイプ	4	—	—	25.0	25.0	25.0	—	100.0	—	25.0	—	—	—
	Cタイプ	6	—	—	—	—	—	33.3	—	—	—	16.7	33.3	—

## (2) 参加競技大会

Table. 4—(2) で示すように競技大会への参加は，全体的，タイプ別にみても男子で都道府県大会，郡市町村大会参加で約 60% を占めている。女子は全国大会への参加の割合が日体協調査結果に比較して高い傾向がみられる。

Table. 4—(2) 参加競技大会

区分		N	国際大会	全国大会	ブロック大会	都道府県大会	郡・市町村大会	その他	なし	不明
男子	日体協調査計	2042	1.0	32.3	12.8	31.2	16.7	1.4	3.3	1.2
	本調査計	281	1.8	24.6	4.6	35.6	24.6	2.1	5.7	1.1
	Aタイプ	45	—	21.7	4.3	32.6	28.3	2.2	8.7	2.2
	Bタイプ	109	1.8	24.8	5.5	33.9	28.4	1.8	0.9	2.8
	Cタイプ	127	2.4	25.2	3.9	37.8	19.7	2.4	8.7	—
女子	日体協調査計	569	0.9	38.5	10.0	22.3	16.7	1.6	8.6	1.4
	本調査計	17	—	64.7	—	17.6	5.9	5.9	5.9	—
	Aタイプ	7	—	85.7	—	—	14.3	—	—	—
	Bタイプ	4	—	25.0	—	75.0	—	—	—	—
	Cタイプ	6	—	66.7	—	—	—	16.7	16.7	—

(3) 競技活動年数

Table. 4—(3) の示すように男子では5～10年が16%, 10～15年が23.8%, 15～20年が23.8%, 20年以上27%とかなり多様であり, 日体協調査結果と

Table. 4—(3) 競技活動年数

区分		N	3年未満	3.5年～未満	5.10年～未満	10.15年～未満	15.20年～未満	20年以上	なし	不明
男子	日体協調査計	2042	2.9	5.4	16.3	23.2	19.5	30.8	1.2	0.7
	本調査計	281	2.5	4.6	16.0	23.8	23.8	27.0	1.8	0.4
	Aタイプ	45	6.7	4.4	13.3	33.3	20.0	20.0	2.2	—
	Bタイプ	109	—	2.8	14.7	23.9	30.0	27.5	0.9	—
	Cタイプ	127	3.1	6.3	18.1	20.5	19.7	29.1	2.7	0.8
女子	日体協調査計	569	7.0	13.9	33.0	21.8	10.2	9.0	3.2	1.9
	本調査計	17	—	17.6	29.4	35.3	11.8	—	5.9	—
	Aタイプ	7	—	28.6	28.6	42.9	—	—	—	—
	Bタイプ	4	—	25.0	—	50.0	25.0	—	—	—
	Cタイプ	6	—	—	50.0	16.7	16.7	—	16.7	—

同じ傾向を示す。タイプ別では Aタイプが 10~15 年が最も多く、Bタイプでは 15~20 年、Cタイプは 20 年以上が最も多くなっている。女子では全体的には 10~15 年が最も多く、タイプ別にみると、A、Bタイプが 10~15 年が最も多く、Cタイプでは 5~10 年が最も多く、Cタイプでは 5~10 年が多い傾向を示している。

#### (4) スポーツ経験と指導種目の関係

Table. 4—(4) のとおり 男女とも全体的には約 70~79% が自分の経験した種目が指導の対象となっている。タイプ別では男女とも Cタイプに経験以外の種目を指導しているものが約 30~50% いる。

Table. 4—(4) スポーツ経験と指導種目の関係

区 分		N	一致している	一致していない	不 明
男 子	日体協調査計	2042	86.6	12.7	0.7
	本調査計	281	77.9	21.4	0.7
	Aタイプ	45	82.2	15.6	2.2
	Bタイプ	109	86.2	12.8	0.9
	Cタイプ	127	69.3	30.7	—
女 子	日体協調査計	569	76.3	20.7	3.0
	本調査計	17	70.6	23.5	5.9
	Aタイプ	7	85.7	14.3	—
	Bタイプ	4	75.0	—	25.0
	Cタイプ	6	50.0	50.0	—

#### (5) 専門種目

Table. 4—(5) のように専門種目に関しては、男子 24 種目、女子 8 種目にわたっている。男子ではバレーボール、バドミントン、スキー、陸上競技、卓球、野球、テニス、水泳が、女子ではバレーボール、体操、テニス、水泳が比較的多い。スポーツ指導員全体のバランスを考慮して、講習会では開設種目を決定する必要がある。

Table. 4—(5) 専 門 種 目 (重複回答)

区 分		N	陸上競技	バレーボール	バスケットボール	サッカー	野球	卓球	テニス	羽球	水泳	柔道	剣道	体操	ヨット
男 子	本調査計	281	8.5	16.7	4.6	3.6	7.5	8.5	7.1	11.7	6.8	5.7	5.3	2.1	0.7
	Aタイプ	45	4.4	13.3	4.4	6.6	2.2	6.6	11.1	20.0	11.1	6.6	6.6	—	—
	Bタイプ	109	8.3	16.5	4.5	2.7	6.4	12.8	8.3	9.2	6.4	7.3	3.7	—	—
	Cタイプ	127	10.2	18.1	4.7	3.1	10.2	5.5	4.7	11.0	5.5	3.9	6.3	4.7	1.6
女 子	本調査計	17	—	23.6	—	—	—	5.9	11.7	5.9	11.7	—	—	17.6	—
	Aタイプ	7	—	14.3	—	—	—	14.3	14.3	14.3	—	—	—	28.6	—
	Bタイプ	4	—	25.0	—	—	—	—	25.0	—	—	—	—	25.0	—
	Cタイプ	6	—	33.3	—	—	—	—	—	—	33.3	—	—	—	—

  

区 分		N	ラグビー	スキー	ハンドボール	ソフトボール	山岳	スケート	ボクシング	角力	空手	トランポリン	特になし	不明
男 子	本調査計	281	0.7	10.0	1.1	0.7	0.7	4.3	0.4	0.4	0.4	0.4	2.8	1.4
	Aタイプ	45	2.2	4.4	—	2.2	—	2.2	—	—	—	—	—	2.2
	Bタイプ	109	—	12.8	1.8	0.9	—	2.7	0.9	0.9	—	—	0.9	1.8
	Cタイプ	127	0.8	9.4	0.8	—	1.6	6.3	—	—	0.8	0.8	4.7	0.8
女 子	本調査計	17	—	—	—	—	—	5.9	—	—	—	—	5.9	5.9
	Aタイプ	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14.3
	Bタイプ	4	—	—	—	—	—	25.0	—	—	—	—	—	—
	Cタイプ	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16.7	—

## 5. 指 導 歴

### (1) スポーツ指導歴の主な対象

Table. 5—(1)の示すとおり全体的にみて男子は地域のスポーツクラブが84.3%、学校の運動部が57.7%と地域スポーツクラブとの結びつきが強く、タイプ別にみても同じ傾向である。女子も男子と同じ傾向を示している。

## (2) 指導経験年数

Table. 5—(2) のとおり全体的に男女とも5~10年が多く、男子で約60%、女子で約70%が10年以下である。タイプ別ではAタイプの男子が10年以下71%と指導経験年数の低さがみられる。女子も同じ傾向である。

Table. 5—(1) スポーツ指導歴の主な対象 (重複回答)

区 分		N	学校の運動部	職場のスポーツクラブ	地域のスポーツクラブ	民間のスポーツクラブ	その他	なし	不明
男 子	日体協調査計	2042	47.0	31.7	70.1	1.6	7.6	5.3	0.4
	本調査計	281	57.7	25.3	84.3	2.5	9.3	2.5	—
	Aタイプ	45	44.4	26.7	91.1	4.4	2.2	4.4	—
	Bタイプ	109	62.4	29.4	90.8	1.8	9.2	—	—
	Cタイプ	127	58.3	21.3	76.4	2.4	11.8	3.9	—
女 子	日体協調査計	569	28.1	9.0	56.8	4.2	13.0	14.4	1.6
	本調査計	17	47.1	11.8	58.8	17.6	29.4	—	—
	Aタイプ	7	71.4	14.3	71.4	14.3	14.3	—	—
	Bタイプ	4	50.0	—	75.0	25.0	25.0	—	—
	Cタイプ	6	16.7	16.7	33.3	16.7	50.0	—	—

Table. 5—(2) 指導経験年数

区 分		N	3年未満	3~5年未満	5~10年未満	10~15年未満	15~20年未満	20年以上	なし	不明
男 子	日体協調査計	2042	12.9	16.9	26.2	16.7	9.5	11.9	4.3	1.5
	本調査計	281	13.9	13.2	30.9	16.7	12.5	10.7	1.1	1.1
	Aタイプ	45	22.2	22.2	26.7	13.3	6.7	6.7	2.2	—
	Bタイプ	109	4.6	9.2	37.6	18.3	15.6	13.8	—	0.9
	Cタイプ	127	18.9	13.4	26.8	16.5	11.8	9.4	1.6	1.6
女 子	日体協調査計	569	33.4	25.3	18.1	4.2	1.8	2.6	11.6	3.0
	本調査計	17	17.6	17.6	35.3	11.8	5.9	5.9	—	—
	Aタイプ	7	—	28.6	28.6	14.2	14.2	14.2	—	—
	Bタイプ	4	—	25.0	50.0	—	—	—	—	25.0
	Cタイプ	6	50.0	—	33.3	16.7	—	—	—	—

6. もっている他の資格や役職

Table. 6 をみてわかるように、全体的にみて競技公認審判員が66.9%と最も多く、スポーツテスト判定員43.4%、体育指導委員39.5%、競技公認指導員の35.2%となっており、スポーツトレーナーとの結びつきは低い。女子では競技公認審判員64.7%、競技公認指導員41.7%、体育科教員免許35.3%となっている。男子に比べて2級スポーツトレーナーとの関係が比較的強い。タイプ別にみると、男子ではAタイプは競技公認審判員、スポーツテスト員との兼務が多いが、B、Cタイプでは競技公認審判員、競技公認指導員、スポーツテスト判定員との兼務が多く、しかも体育指導委員、スポーツ少年団指導員との関係も比較的高い傾向がみられる。女子では、A、Bタイプでは競技公認審判員、体育科教員免許との兼務が多く、Cタイプでは競技公認審判員、競技公認指導員との兼務が多い傾向がみられる。

Table. 6 もっている他の資格や役職

区 分	N	一級 スナ ポ ー ツ	二級 スナ ポ ー ツ	ス ポ ー ツ 少 年 団 指 導 員	ス ポ ー ツ 指 導 員	ス ポ ー ツ テ ス ト 指 導 員	ス ポ ー ツ テ ス ト 判 定 員	競 技 公 認 指 導 員	競 技 公 認 審 判 員	体 育 科 教 育 免 許	社 会 教 育 主 事	体 育 指 導 委 員	レ ク リ エ ー シ ョ ン 指 導 員	日 本 赤 十 字 社 指 導 員	そ の 他	不 明	
																	日 本 協 会 調 査 計
男 子	日 本 協 会 調 査 計	2042	0.6	2.7	—	19.4	6.8	26.4	18.6	48.6	11.9	4.4	25.5	4.2	—	2.8	1.9
	本 調 査 計	281	1.1	5.3	—	26.3	8.9	43.4	35.2	66.9	27.0	13.5	39.5	13.5	14.9	2.2	7.1
	A タ イ プ	45	—	—	—	13.3	15.6	35.6	24.4	44.4	6.7	—	17.8	—	—	4.3	20.0
	B タ イ プ	109	1.8	6.4	—	32.1	7.3	42.2	40.4	75.2	25.7	13.8	47.7	22.9	14.9	4.6	0.9
	C タ イ プ	127	0.8	6.3	—	26.0	7.9	47.2	34.6	67.7	35.4	18.1	40.2	14.2	20.5	4.7	7.9
女 子	日 本 協 会 調 査 計	569	—	1.4	—	5.8	5.4	12.0	7.9	16.0	13.2	0.5	15.5	4.9	—	5.1	4.4
	本 調 査 計	17	—	17.6	—	17.6	5.9	23.5	41.2	64.7	35.3	—	5.9	11.8	35.3	17.6	5.9
	A タ イ プ	7	—	—	—	—	14.3	14.3	28.6	57.1	42.9	—	—	—	14.3	28.6	14.3
	B タ イ プ	4	—	25.0	—	25.0	—	50.0	25.0	75.0	50.0	—	—	25.0	25.0	—	—
	C タ イ プ	6	—	33.3	—	33.3	—	16.7	66.7	66.7	16.7	—	16.7	16.7	66.7	16.7	—

7. 現在の指導活動

(1) 指導の主な対象

Table. 7—(1) で示すように男女とも全体的にみて婦人スポーツクラブ (男子 54.8%, 女子 82.4%), 一般成人のスポーツクラブ (男子 43.1%, 女子 23.5%) など地域スポーツクラブの結びつきが強い。特に女子は婦人のスポーツクラブ指導が中心のようである。高年令層, 幼児のスポーツクラブ指導が全国と同じ低率であり男女とも同じ傾向を示しているが, この領域の指導開発が望まれる。

Table. 7—(1) 指導の主な対象 (重複回答)

区 分	N	中学の運動部	高校の運動部	大学高専の運動部	職場のスポーツクラブ	スポーツ少年団	少年団以外のスポーツクラブ	幼児のスポーツクラブ	勤労青年のスポーツクラブ	一般成人のスポーツクラブ	婦人のスポーツクラブ	高年令者のスポーツクラブ	年令層の広いスポーツクラブ	営利目的のスポーツクラブ	その他	不明	
男 子	日体協調査計	2042	22.6	17.9	2.0	26.7	29.3	18.3	1.6	21.4	43.2	28.0	4.6	10.5	0.6	4.8	2.2
	本調査計	281	19.2	18.1	1.4	21.4	39.5	28.1	3.9	29.5	43.1	54.8	11.4	23.5	0.4	5.0	0.7
	Aタイプ	45	13.3	13.3	2.2	22.2	28.9	28.9	4.4	24.4	28.9	48.9	—	15.6	2.2	4.4	2.2
	Bタイプ	109	21.1	22.0	0.9	25.7	46.8	32.1	5.5	32.1	56.9	65.1	16.5	28.4	—	1.8	—
	Cタイプ	127	19.7	16.5	1.6	17.3	37.0	24.4	2.4	29.1	36.2	48.0	11.0	22.0	—	7.9	0.8
女 子	日体協調査計	569	7.6	5.3	1.8	5.6	9.3	9.1	4.9	4.7	15.8	60.8	4.4	8.8	1.9	8.4	9.8
	本調査計	17	—	—	—	11.8	17.6	23.5	17.6	17.6	23.5	82.4	5.9	17.6	11.8	11.8	—
	Aタイプ	7	—	—	—	14.3	—	42.9	28.6	14.3	14.3	85.7	—	—	14.3	—	—
	Bタイプ	4	—	—	—	—	25.0	—	25.0	—	25.0	100.0	25.0	50.0	25.0	—	—
	Cタイプ	6	—	—	—	16.7	33.3	16.7	—	33.3	33.3	66.7	—	16.7	—	33.3	—

(2) 主な指導活動

Table. 7—(2) のように全体的傾向として男子は, 初心者技術指導の 79.4%, 地域組織の普及育成の 63.3% が多く, 女子では初心者技術指導 88.2%, 経験者の技術指導 52.9% となっている。タイプ別では, 男子 Aタイプでは初心者技術指導と経験者の技術指導が主となっているが, B, Cタイプでは初心者技術指導と地域組織の普及育成が主な活動となっている。女子はいずれのタイプも初心者技術指導が多く, 経験者の技術指導がこれにつづいている。

Table. 7—(2) 主な指導活動 (重複回答)

区 分		N	初 心 者 の 技 術 指 導	経 験 者 の 技 術 指 導	競 技 選 手 の 技 術 指 導	グ ル ー プ の 育 成	地 域 組 織 の 普 及 ・ 育 成	そ の 他	不 明
男 子	日体協調査計	2042	68.7	54.6	17.0	31.7	51.9	1.6	2.1
	本調査計	281	79.4	56.2	23.8	40.6	63.3	—	0.7
	Aタイプ	45	77.8	55.6	22.2	33.3	46.7	—	2.2
	Bタイプ	109	87.2	63.3	24.7	45.9	71.6	—	—
	Cタイプ	127	73.2	50.4	23.6	38.6	72.5	—	0.9
女 子	日体協調査計	569	61.3	31.8	3.9	28.1	38.8	4.2	10.9
	本調査計	17	88.2	52.9	17.6	17.6	35.3	5.9	—
	Aタイプ	7	85.7	57.1	—	14.3	42.9	—	—
	Bタイプ	4	100.0	50.0	50.0	25.0	25.0	—	—
	Cタイプ	6	83.5	50.0	16.7	16.7	33.3	—	—

(3) 指導日数

Table. 7—(3) でわかるように、全体的傾向として週1～2日が男子平均約50%、女子約60%となっており、タイプ別においても同じ傾向がうかがわれる。

Table. 7—(3) 指導日数 (週平均)

区 分		N	0 日	1 日	2 日	3 日	4 日	5 日	6 日	7 日	不 明
男 子	日体協調査計	2042	3.0	24.9	22.8	17.5	7.9	6.3	6.4	2.3	9.0
	本調査計	281	1.4	17.1	28.8	16.4	9.6	9.3	7.1	2.8	7.5
	Aタイプ	45	—	20.0	33.3	20.0	4.4	4.4	8.9	4.4	4.4
	Bタイプ	109	—	14.7	31.2	13.8	11.0	12.8	8.3	1.8	6.4
	Cタイプ	127	3.1	18.1	25.2	17.3	10.2	7.9	5.5	3.1	9.4
女 子	日体協調査計	569	1.8	33.0	27.6	11.2	3.7	3.2	2.6	0.4	16.5
	本調査計	17	5.9	17.7	41.2	11.8	5.9	—	5.9	—	11.8
	Aタイプ	7	14.3	14.3	42.9	14.3	14.3	—	—	—	—
	Bタイプ	4	—	—	50.0	25.0	—	—	25.0	—	—
	Cタイプ	6	—	33.3	33.3	—	—	—	—	—	33.3

## (4) 指導の形態

Table. 7—(4) のとおり 全体的には男子 69%, 女子は 76.5% が定期的に指導活動している。タイプ別にみても同じ傾向であるが、ただ女子のCタイプが 66.7% と不定期指導である。

Table. 7—(4) 指導の形態

区 分		N	定期的	不定期的	不明
男 子	日体協調査計	2042	64.1	32.4	3.5
	本調査計	281	69.0	26.7	4.3
	Aタイプ	45	77.8	17.8	4.4
	Bタイプ	109	72.5	22.0	5.5
	Cタイプ	127	63.0	33.9	3.1
女 子	日体協調査計	569	64.1	22.7	13.2
	本調査計	17	76.5	23.5	—
	Aタイプ	7	100.0	—	—
	Bタイプ	4	100.0	—	—
	Cタイプ	6	33.3	66.7	—

## (5) 指導時間

Table. 7—(5) 指導時間 (1回)

区 分		N	1時間未満	1 2時間未満	2 3時間未満	3 4時間未満	4 5時間未満	5時間以上	不明
男 子	日体協調査計	2042	2.4	39.0	44.1	8.5	1.5	1.4	3.1
	本調査計	281	1.8	40.9	48.8	5.7	1.1	0.4	1.4
	Aタイプ	45	—	53.3	40.0	4.4	—	2.2	—
	Bタイプ	109	—	41.3	53.2	2.8	1.8	—	0.9
	Cタイプ	127	3.9	36.2	48.0	8.7	0.8	—	2.4
女 子	日体協調査計	569	3.3	50.8	29.5	2.8	0.5	0.2	12.8
	本調査計	17	—	70.6	23.5	—	—	5.9	—
	Aタイプ	7	—	85.7	14.3	—	—	—	—
	Bタイプ	4	—	50.0	50.0	—	—	—	—
	Cタイプ	6	—	66.8	16.7	—	—	16.7	—

Table. 7—(5) でみると全体的傾向として、男子は1～2時間、2～3時間がそれぞれ約40%代を占めており、女子では1～2時間が70.6%と多い。タイプ別でもほぼ同傾向である。

(6) 活動の場所

Table. 7—(6) でわかるとおり、全体的には男子は公共施設、学校施設の使用が多く、それも定期的使用が70%となっている。女子では公共施設使用が70.6%と多く、定期的使用が76.5%である。タイプ別も男女とも同じ傾向を示している。

Table. 7—(6) 活動の場所

区 分	N	公 共 施 設	学 校 施 設	職 場 施 設	民 間 営 利 施 設	個 人 施 設	空 地 ・ 庭 ・ 社 等	野 外 ( 海 ・ 山 等)	そ の 他	不 明	N	定 期 的 使 用	不 定 期 的 使 用	不 明	
男 子	日体協調査計	2042	33.5	47.8	4.2	0.7	1.9	0.8	2.2	0.6	8.3	2042	82.6	14.7	2.7
	本調査計	281	53.4	33.5	3.2	1.1	1.1	—	5.0	0.7	1.4	281	69.8	7.5	22.8
	Aタイプ	45	62.2	28.9	4.4	2.2	—	—	—	—	2.2	45	68.9	4.4	26.7
	Bタイプ	109	54.1	30.3	5.5	—	—	—	7.3	0.9	1.8	109	70.6	2.8	26.6
	Cタイプ	127	49.6	37.8	0.8	1.6	2.4	—	6.3	0.8	0.8	127	69.3	12.6	18.1
女 子	日体協調査計	569	40.2	36.2	2.5	2.5	0.9	0.5	1.2	0.9	15.1	569	77.3	10.0	12.7
	本調査計	17	70.6	5.9	—	11.8	5.9	—	5.9	—	—	17	76.5	11.8	11.8
	Aタイプ	7	85.7	—	—	—	14.3	—	—	—	—	7	85.7	14.3	—
	Bタイプ	4	50.0	25.0	—	25.0	—	—	—	—	—	4	100.0	—	—
	Cタイプ	6	66.7	—	—	16.7	—	—	16.7	—	—	6	50.0	16.7	33.3

8. 指導の謝金

(1) 指導謝金の有無とその金額

Table. 8—(1) のとおり、日体協調査結果と同じ傾向がみられるのであるが、もらっているものの割合が本調査では多い傾向があり、特に女子では高い。タイプ別で女子A、Bタイプでもらっているものの方が高率であり、Cタイプでは反対に低率となっている。また、謝金の金は男女とも1,000円以下が大部分を占めている。

Table. 8—(1) 指導謝金の有無とその金額 (1時間当り)

区 分	N	もらっている	もらっていない	不 明	N	二 四 九 円 以下	二 五 〇 四 九 円	五 〇 七 四 九 円	七 五 〇 九 九 円	一 、 〇 四 九 九 円	一 、 〇 九 〇 九 円	二 、 〇 四 九 九 円	二 、 五 〇 〇 九 円	不 明	
						〇 九 九 円	〇 九 九 円	〇 九 九 円	〇 九 九 円	〇 九 九 円	〇 九 九 円	〇 九 九 円			
男 子	日体協調査計	2042	20.2	76.9	2.9	412	43.9	20.6	8.5	7.3	8.0	1.9	0.7	2.2	6.8
	本調査計	281	30.1	64.8	2.1	93	30.1	25.8	16.1	10.8	8.6	2.2	3.2	1.1	2.2
	Aタイプ	45	46.7	48.9	4.4	21	19.0	33.3	23.8	9.5	4.8	—	4.8	4.8	—
	Bタイプ	109	35.8	63.3	0.9	39	30.8	28.2	15.4	12.8	5.1	2.6	2.6	—	2.6
	Cタイプ	127	26.0	71.7	2.4	33	36.4	18.2	12.1	9.1	15.2	3.0	3.0	—	3.0
女 子	日体協調査計	569	29.3	57.6	13.0	167	19.2	22.2	13.8	18.6	14.4	3.6	1.2	2.4	4.8
	本調査計	17	58.8	41.2	—	10	30.0	10.0	10.0	10.0	30.0	10.0	—	—	—
	Aタイプ	7	85.7	14.3	—	6	16.7	—	—	16.7	50.0	16.0	—	—	—
	Bタイプ	4	75.0	25.0	—	3	66.7	33.3	—	—	—	—	—	—	—
	Cタイプ	6	16.7	83.3	—	1	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—

## (2) 謝金の内容

Table. 8—(2) で示すように全体的傾向として男子をみると「純粋な謝金」としてが 64.5% で最も多く、「交通費を含む謝金」としてが 16.1% とつづいている。これはタイプ別でも同傾向であり、女子も男子と同じ傾向を示している。

Table. 8—(2) 謝金の内容

区 分	N	純粋な 謝金	交通費を 含む謝金	交通費 のみ	その他	不 明	
男 子	日体協調査計	412	58.5	25.5	5.1	4.9	6.1
	本調査計	93	64.5	16.1	5.4	10.8	3.2
	Aタイプ	21	76.2	14.3	4.8	4.8	—
	Bタイプ	39	66.7	17.9	5.1	7.7	2.6
	Cタイプ	33	54.5	15.2	6.1	18.2	6.1
女 子	日体協調査計	167	59.9	24.6	10.2	1.8	3.6
	本調査計	10	60.0	30.0	—	10.0	—
	Aタイプ	6	66.7	16.7	—	16.7	—
	Bタイプ	3	66.7	33.3	—	—	—
	Cタイプ	1	—	100.0	—	—	—

(3) 謝金の出所

Table. 8—(3) のとおり 全体的には 男子は行政当局からのものが 65.6% と最も多い。女子では行政当局からのものが多いが、クラブ会員などからの出費も多い。タイプ別にみても男女それぞれ同傾向を示している。

Table. 8—(3) 謝金の出所

区 分		N	クラブ 会費・ 運営費	体 協・ 競技団体	支 援・ 後援団体	行政当局	その他	不 明
男 子	日体協調査計	412	24.3	14.3	9.0	41.7	3.2	7.5
	本 調 査 計	93	9.7	10.8	4.3	65.6	4.3	5.4
	A タ イ プ	21	—	10.5	4.8	71.4	10.5	4.8
	B タ イ プ	39	20.5	2.6	2.6	71.8	2.6	—
	C タ イ プ	33	3.0	21.2	6.1	74.5	3.0	12.1
女 子	日体協調査計	167	38.3	7.8	4.8	39.5	3.6	6.0
	本 調 査 計	10	40.0	10.0	—	40.0	10.0	—
	A タ イ プ	6	16.7	16.7	—	50.0	16.0	—
	B タ イ プ	3	66.7	—	—	33.3	—	—
	C タ イ プ	1	100.0	—	—	—	—	—

(4) 謝金の制度化

Table. 8—(4) のとおり「謝金が制度化されている」が全体的には男子 61.3 %、女子 50% となっている。タイプ別も同じ傾向を示す。

Table. 8—(4) 謝金の制度化

区 分		N	されている	されていない	不 明
男 子	日体協調査計	412	58.5	35.0	6.6
	本 調 査 計	93	61.3	15.1	23.6
	A タ イ プ	21	57.1	4.8	48.1
	B タ イ プ	39	66.7	17.9	15.4
	C タ イ プ	33	57.5	18.2	24.3
女 子	日体協調査計	167	53.3	40.7	6.0
	本 調 査 計	10	50.0	10.0	30.0
	A タ イ プ	6	33.3	16.7	33.3
	B タ イ プ	3	100.0	—	—
	C タ イ プ	1	—	—	100.0

## (5) 指導活動についての考慮

Table. 8—(5)のように、謝金はもらっていないが指導活動上で何か考慮されているかという点について、全体的に男子52.4%、女子50%が何等考慮されていないと答えている。

Table. 8—(5) 指導活動についての考慮

区 分		N	あ る	な い	不 明
男 子	日体協調査計	1570	15.7	68.1	16.2
	本調査計	187	22.5	52.4	24.6
	Aタイプ	23	13.0	43.8	43.8
	Bタイプ	70	28.6	41.4	30.8
	Cタイプ	94	21.3	62.8	15.9
女 子	日体協調査計	328	10.7	68.6	20.7
	本調査計	8	37.5	50.0	12.5
	Aタイプ	2	—	100.0	—
	Bタイプ	1	100.0	—	—
	Cタイプ	5	40.0	40.0	20.0

## 9. 自己支出の有無とその内容

Table. 9 自己支出の有無とその内容

(1) 自己支出の有無 (2) 出費の内容

区 分	N	あ る			N	(2) 出費の内容					
		あ る	な い	不 明		謝 金 の 支 出	部 す る 支 出 と 同 を る	謝 額 支 出 の 多 少	謝 支 出 が 多 い	も 支 だ け ば す ら る	不 明
男 子	日体協調査計	2042	57.6	38.5	3.9	1177	10.8	4.5	14.6	66.0	4.1
	本調査計	281	58.0	39.9	2.1	163	17.8	8.0	22.1	50.9	1.2
	Aタイプ	45	55.6	42.2	2.2	25	28.0	4.0	20.0	48.0	—
	Bタイプ	109	66.1	33.0	0.9	72	19.4	9.7	26.4	43.1	1.4
	Cタイプ	127	52.0	44.9	3.1	66	12.1	7.6	18.2	60.6	1.5
女 子	日体協調査計	569	35.5	51.8	12.7	202	26.7	5.0	9.9	55.4	3.0
	本調査計	17	64.7	35.3	—	11	36.4	9.1	36.4	18.2	—
	Aタイプ	7	57.1	42.9	—	4	50.0	—	25.0	25.0	—
	Bタイプ	4	50.0	50.0	—	2	100.0	—	—	—	—
	Cタイプ	6	83.3	16.7	—	5	—	20.0	60.0	20.0	—

Table. 9 の示すように、全体的傾向として男子では自己支出費が 58%，女子は 64.7% となっている。タイプ別も同じ傾向を示す。出費の内容をみると男子ではもっぱら支出するだけのものが 50.9% を占めている。女子では謝金の一部を支出したり、謝金より支出が多いとするものがそれぞれ 36.4% いる。

### 10. 資格の活用

Table. 10 で示すように全体的には「あまり生かしていない」とするものが男子 44.5%，女子 41.2% と最も多い。タイプ別にみると男子の A，B タイプで「大いに生かしている」と答えたものが各々約 50% いる。C タイプでは「あまり生かしていない」「無効に等しい」とする傾向が多いようにかがわれる。女子はこの傾向が比較的強い。「あまり生かしていない」「無効に等しい」と答えたその理由として全体的傾向では「資格が必ずしも十分理

Table. 10 資格の活用について

区 分	N	大いに生かしている	あまり生かしていない	無効に等しい	その他の	不明	N	経済的に負担が多すぎる	時間的に負担が多すぎる	身体的に負担が多すぎる	仕事はつきりしない スポーツ指導員としての	資格が必ずしも十分理解 されていない	自分の技術が生かせない	その他	不明	
																その他
男 子	日体協調査計	2042	74.5	12.8	4.8	4.7	3.1	361	6.4	47.4	—	—	28.5	5.0	7.8	5.0
	本調査計	281	33.1	44.5	14.2	6.8	1.1	199	2.5	15.6	2.5	21.1	35.7	4.5	9.6	8.5
	Aタイプ	45	48.9	40.0	6.7	2.2	2.2	31	3.2	32.3	3.2	3.2	22.6	22.6	3.2	9.7
	Bタイプ	109	51.4	36.7	6.4	4.6	0.9	55	1.8	21.8	1.8	25.5	40.0	—	1.8	7.3
	Cタイプ	127	11.8	52.8	23.6	10.2	1.6	113	2.7	7.9	2.7	23.9	37.2	1.8	15.0	8.9
女 子	日体協調査計	569	65.0	11.2	3.9	7.2	12.7	86	1.2	33.7	—	—	27.9	9.3	19.8	8.1
	本調査計	17	17.6	41.2	23.5	17.7	—	11	—	—	—	36.4	45.5	—	18.2	—
	Aタイプ	7	28.6	42.9	—	28.6	—	3	—	—	—	33.3	66.7	—	—	—
	Bタイプ	4	25.0	50.0	25.0	—	—	3	—	—	—	33.3	33.3	—	33.3	—
	Cタイプ	6	—	33.3	50.0	16.0	—	5	—	—	—	40.0	40.0	—	20.0	—

解されていない」が最も多く男子35.7%、女子45.5%となっている。つづいて「スポーツ指導員としての仕事ははっきりしない」が男子21.1%、女子36.4%である。タイプ別では、男子のAタイプは「時間的に負担が多すぎる」「資格が必ずしも十分理解されていない」「自分の技術が生かさない」とするものが多く、B、Cタイプでは「資格が必ずしも十分理解されていない」「スポーツ指導員としての仕事ははっきりしない」が多い。また、女子では各タイプとも「スポーツ指導員としての仕事ははっきりしない」「資格が必ずしも十分理解されていない」を挙げるものが多い。

### 11. 資格取得の効果

Table. 11で示すように全体的傾向として男子64.4%、女子52.9%が取得効果を認めている。その効果の理由を「資質の向上」とするものが最も多く男子63.5%、女子66.7%となっている。タイプ別では、男子A、Bタイプ、女子Aタイプに取得効果を認めるものが多い傾向がみられる。

Table. 11 資格取得の効果

区 分		N	あ っ た	な か っ た	不 明	N	資 質 の 向 上	社 会 的 信 頼	指 導 依 頼	謝 金 を 得 ら れ る	地 位 の 向 上	そ の 他	不 明
男 子	日体協調査計	2042	60.0	34.8	5.1	1226	49.4	16.2	17.1	0.1	7.7	3.6	5.9
	本調査計	281	64.4	28.8	6.8	181	63.5	9.4	17.1	—	7.2	2.8	—
	Aタイプ	45	75.6	17.8	6.7	34	52.9	11.8	26.5	—	5.9	2.9	—
	Bタイプ	109	78.9	15.6	5.5	86	59.3	13.9	20.9	—	5.8	—	—
	Cタイプ	127	48.0	44.1	7.9	61	75.4	1.6	6.6	—	9.8	6.6	—
女 子	日体協調査計	569	61.0	28.3	10.7	347	42.4	17.9	18.4	0.3	4.9	7.8	8.4
	本調査計	17	52.9	41.2	5.9	9	66.7	—	22.2	—	11.1	—	—
	Aタイプ	7	71.4	28.6	—	5	80.0	—	20.0	—	—	—	—
	Bタイプ	4	50.0	50.0	—	2	100.0	—	—	—	—	—	—
	Cタイプ	6	33.3	50.0	16.7	2	—	—	50.0	—	50.0	—	—

### 12. 指導活動についての要望

Table. 12 の示すとおりの要望は極めて多様である。特に要望の多い事項を挙げると、男子では「情報の提供」「講習会開催」「指導者の位置づけ」「行政援助」「連絡機関の設立」等でいずれも 40% 以上の比率である。女子は男子とほぼ同傾向といえるが、ただ男子では低率であった「災害補償制度の確立」の要望が 52.9% と多かった。タイプ別にみても男女ともそれぞれ全体的傾向と一致している。

Table. 12 指導活動についての要望 (重複回答)

区分	N	資格認定制度の確立	報酬基準の確立	情報の提供	講習会の開催	組織の確立	施設の整備確保	用具の幹施	行政当局の援助	災害補償制度の確立	親・地域の理解	指導員の位置づけ	連絡機関の設立	その他	不明	
男	日体協調査計	2042	32.3	22.2	47.4	54.7	33.4	48.0	17.9	44.0	31.5	28.8	—	—	2.8	3.3
	本調査計	281	39.5	27.0	59.1	56.9	37.4	38.1	17.1	42.7	26.7	21.7	47.7	45.2	2.1	1.8
	Aタイプ	45	22.2	17.8	68.9	60.0	35.6	37.8	24.4	44.4	24.4	22.2	28.9	35.6	—	2.2
	Bタイプ	109	42.2	34.9	62.4	57.8	40.4	45.9	18.3	41.3	32.1	30.3	52.3	43.1	3.7	0.9
子	Cタイプ	127	43.3	23.6	52.8	55.1	35.4	31.5	13.4	43.3	22.8	14.2	50.4	50.4	1.6	2.4
女	日体協調査計	569	19.3	16.2	42.4	55.0	30.2	40.2	11.4	31.8	17.4	17.2	—	—	4.4	12.5
	本調査計	17	17.6	23.5	70.6	70.6	29.4	29.4	5.9	23.5	52.9	11.8	52.9	47.1	—	5.9
	Aタイプ	7	—	28.6	71.4	71.4	28.6	42.9	—	42.9	57.1	—	28.6	42.9	—	14.3
	Bタイプ	4	25.0	25.0	75.0	100.0	25.0	50.0	25.0	—	50.0	—	75.0	75.0	—	—
子	Cタイプ	6	33.3	16.7	66.7	50.0	33.3	—	—	16.7	50.0	33.3	66.7	33.3	—	—

### 13. 資格取得の経緯

Table. 13 のとおり市町村教育委員会関係をとおしてのものが、男子 61.6 %、女子 52.9% と最も多い。女子では「個人」というものが 23.5% いる。職域関係は低率であった。

Table. 13 資格取得の経緯

区 分		N	市町村体育協会	地区体育振興会	教育委員関係	市町村競技団体	小・中・高体連	レク団体 リエーション	職 域 関 係	個 人	そ の 他	不 明
男 子	本調査計	281	11.7	0.7	61.6	3.9	—	—	3.2	14.2	4.3	0.4
	Aタイプ	45	8.9	—	64.4	2.2	—	—	4.4	17.8	2.2	—
	Bタイプ	109	13.8	—	68.8	3.7	—	—	2.8	9.2	1.8	—
	Cタイプ	127	11.0	1.6	54.3	4.7	—	—	3.1	17.3	7.1	0.8
女 子	本調査計	17	5.9	—	52.9	5.9	—	—	5.9	23.5	5.9	—
	Aタイプ	7	14.3	—	42.9	—	—	—	14.3	28.6	—	—
	Bタイプ	4	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—
	Cタイプ	6	—	—	33.3	16.7	—	—	—	33.3	16.7	—

## V 総 括

今回の調査結果から北海道体育協会としては、今後のスポーツ指導員養成講習会の運用にかかわる問題として次の事項が挙げられよう。

1) 特に女子スポーツ指導員および商工自営、工員、商店員などの各職域からの指導者の育成・確保。

2) 地域住民に対するスポーツ指導員の積極的な広報活動。

3) 指導員養成講習会における専門種目開設時の総体的考慮。

4) 幼児・高年令層スポーツクラブ領域に対する指導の開発と促進。

つぎにスポーツ指導員の指導活動、資格の活用の実態、指導活動についての要望事項等を通して次の諸条件を整備してゆくことが急務であろう。

1) 指導員の資質向上をはかる手段として、研修会研究会等を地域単位や専門種目別に開設する。

2) 指導活動に参考となる情報や資料の提供。

3) 指導員の相互理解と連係を計るための登録制と組織化。

4) 地域社会の要請に応じられるスポーツリーダーバンクシステム<sup>(4)</sup>の推進。

5) 指導活動を安定させ、やりがいあるものとするため機能的位置づけや、役割(対象・種目・技術)の明確化。

6) 各競技団体との関連をもった包括的指導体制の確立。

7) 指導員の待遇の再検討。

なお日体協では昭和51年3月実施の調査に基き、「指導者の育成と活動に関する制度」<sup>(5)</sup>を確立すべく、その第一段階として、本会認定の有資格者の登録制を実施する方向で検討をすすめているようであるが、より適切な制度としてその実現化の一日も早いことを願うとともに、北海道体育協会としては、今回の本道の実態をふまえ、各事項の実現化に取り組み、スポーツ指導員育成と活動の活発化を計ってゆかねばならない。これは本道スポーツの普及振興をはかる最も根本的にして重要な条件なのである。

(1977. 2. 31)

<付記> 本調査は北海道体育協会普及委員会からの依頼調査である。調査事項は日本体育協会(51.3.実施)のものによったが、一部補足事項の決定と製作および整理、集計については、北海学園大学木下広之教授と筆者で行なったが、説述に関しては総べて筆者が行なったものである。

---

(4) この制度については、東京都三鷹市、八王子市、文京区、また富山県などで実施され成果をおげている。これに関しては次の資料を参照のこと。体育科教育：国民スポーツ具体化への実践，11月増刊号，pp. 119～133，大修館書店，昭和51年。

(5) 日本体育協会：スポーツ・ジャーナル，第2号，pp. 30～31，昭和51年。

## 日本体育協会公認スポーツ指導員の活動状況調査について

### 「調査のお願い」

今回、北海道体育協会では、道民スポーツの普及、振興に必要な指導体制を確立するため道内スポーツ指導員の実態調査を行なうことになりましたが、よろしくご協力方お願い申し上げます。とりまとめの関係上、昭和51年6月5日(必着)で同封筒によりご返送お願い申し上げます。

北海道体育協会普及委員会

### 「記入上の注意」

- 該当する項目番号に○印をつけて下さい。
- 解答欄のその他の( )の中にはその内容を具体的にご記入下さい。
- 調査は統計上の処理以外は利用することは絶体ありませんので安心してありのままを答えて下さい。

### 「基礎的事項」

次の事項をご記入下さい。

○市町村名( )  
住所 TEL( )

氏名 専門種目名( )

### I あなた自身のことについて。

- Q 1. 性別  
1. 男            2. 女
- Q 2. 年齢  
1. 20才代    2. 30才代    3. 40才代    5. 60才以上
- Q 3. 職業
- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| 1. 小学校教員                | 9. 農林・漁業             |
| 2. 中学校教員                | 10. 医師               |
| 3. 高等学校教員               | 11. 自由業(弁護士・文筆家・僧侶等) |
| 4. 大学・高専教員              | 12. 団体役員(農協理事等)      |
| 5. 公務員(警察官・三公社五現業職員を含む) | 13. 主婦               |
| 6. 会社員(団体職員も含む)         | 14. 学生               |
| 7. 工員・商店員               | 15. 無職               |
| 8. 商工自営(経営者のみ)          | 16. その他( )           |

### II あなたのスポーツ歴について。

- Q 4. あなたが現在もっているスポーツ団体の役員について答えて下さい。(ここでいう役員とは、評議員・理事・専門委員会委員等をさします) 該当するものすべてを答えて下さい。
- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| 1. 日本体育協会役員             | 6. 都道府県競技団体の役員       |
| 2. 都道府県体育協会役員           | 7. 市町村競技団体の役員        |
| 3. 市町村体育協会(地区体育協会を含む)役員 | 8. 小・中・高体連の役員        |
| 4. 地区体育(またはスポーツ)振興会役員   | 9. 体育指導委員関係の役員       |
| 5. 中央競技団体の役員            | 10. その他レクリエーション関係の役員 |
|                         | 11. なし               |

- Q 5. あなたが参加した最も高い水準の競技大会について。(次のものから1つだけ選ぶ)
- |                          |             |
|--------------------------|-------------|
| 1. 国際競技大会出場              | 4. 都道府県大会出場 |
| 2. 全国大会出場                | 5. 郡市町村大会出場 |
| 3. ブロック大会出場(東北・関東・九州大会等) | 6. その他( )   |
|                          | 7. なし       |
- Q 6. あなたの競技活動年数は何年になりますか。(2競技以上の場合はそれを通算する)
- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. 3年未満       | 5. 15年以上～20年未満 |
| 2. 3年以上～5年未満  | 6. 20年以上       |
| 3. 5年以上～10年未満 | 7. なし          |
| 4. 10年以上15年未満 |                |
- Q 7. あなたが経験した主なスポーツ種目が現在指導対象種目となっていますか。
- |           |            |
|-----------|------------|
| 1. なっている。 | 2. なっていない。 |
|-----------|------------|
- Q 8. あなたが専門とするスポーツ名は何ですか。
- |             |         |
|-------------|---------|
| 1. スポーツ名( ) | 2. 特になし |
|-------------|---------|

### Ⅲ あなたのこれまでのスポーツ指導歴について。

- Q 9. 次のスポーツクラブ(教室等)またはグループを1年以上指導したことがありますか。該当するもののすべての番号に○印をつけて下さい。
- |                   |                           |
|-------------------|---------------------------|
| 1. 学校の運動部         | 4. 営利を目的とする民間のスポーツクラブ(教室) |
| 2. 職場のスポーツクラブ     |                           |
| 3. 地域のスポーツクラブ(教室) | 5. その他( )                 |
|                   | 6. なし                     |
- Q10. 以上の指導経験年数は、通算すると何年くらいになりますか。
- |                |                |
|----------------|----------------|
| 1. 3年未満        | 5. 15年以上～20年未満 |
| 2. 3年以上～5年未満   | 6. 20年以上       |
| 3. 5年以上～10年未満  | 7. なし          |
| 4. 10年以上～15年未満 |                |
- Q11. あなたはスポーツ指導員のほかに次の資格や役職をもっていますか。もっていれば該当するもののすべての番号に○印をつけて下さい。
- |                       |  |
|-----------------------|--|
| 1. スポーントレーナー(1級)      | 9. 社会教育主事(スポーツ主事を含む)                         |
| 2. スポーントレーナー(2級)      |  |
| 3. スポーツ少年団指導員         | 10. レクリエーション指導員(オリエンテーリング、サイクリング、フォークダンスも含む) |
| 4. スポーツテスト指導員         | 11. 体育指導委員                                   |
| 5. スポッテスト判定員          | 12. 日本赤十字社指導員(救助員・救急員)                       |
| 6. 各種競技団体の公認指導員       |  |
| 7. 各種競技団体の公認審判員(競技役員) | 13. その他( )                                   |
| 8. 体育科教員免許状           |  |

### Ⅳ 現在の指導活動について。

- Q 12. あなたは指導活動において、どのような資格の立場で指導している場合が多いですか。(1つだけ選ぶ)
- |                                      |
|--------------------------------------|
| 1. スポーツ指導員としての資格の立場で指導している場合が多い      |
| 2. スポーツ指導員と、ほかの資格・役職とをかねた立場で指導している場合 |

が多い

3. スポーツ指導員としてでなく、むしろほかの資格・役職で指導している場合が多い
- Q13. 指導の主な対象は次のどれですか。上記Q12の1の該当者は×印、Q12の2の該当者は○印、Q12の3の該当者は△印で指導しているもののすべての番号にしるしをつけて下さい。
- |                                  |                                |
|----------------------------------|--------------------------------|
| 1. 中学校の運動部                       | 9. 一般成人を対象としたスポーツクラブ(教室)       |
| 2. 高等学校の運動部                      | 10. 婦人を対象としたスポーツクラブ(教室)        |
| 3. 大学・高専の運動部                     | 11. 高年令者を対象としたスポーツクラブ(教室)      |
| 4. 職のスポーツクラブ                     | 12. 親子等のいろいろな年齢層を含むスポーツクラブ(教室) |
| 5. スポーツ少年団                       | 13. 営利を目的とするスポーツクラブ(教室)        |
| 6. スポーツ少年団以外の児童・生徒対象のスポーツクラブ(教室) | 14. その他( )                     |
| 7. 幼児対象のスポーツクラブ(教室)              |                                |
| 8. 勤労青年を対象としたスポーツクラブ(教室)         |                                |
- Q14. あなたの指導活動は次のどれですか。上記Q12の1の該当者は×印、Q12の2の該当者は○印、Q12の3の該当者は△印で、該当するものすべての番号にしるしをつけて下さい。
- |                     |                       |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 初心者指導対象の技術指導     | 4. 個々のクラブやグループの育成     |
| 2. ある程度経験したものの技術指導  | 5. 地域におけるスポーツ組織の普及・育成 |
| 3. 技術水準の高い選手対象の技術指導 | 6. その他( )             |
- Q15. 指導日数について、どの程度していますか。上記Q12の1、Q12の2、Q12の3の各々の立場から指導した日数を記入して下さい。
1. 平均 週( )日
2. それは定期的ですか。 ① 定期的 ② 不定期
3. 1回の指導時間は平均どのくらいですか。
- |              |              |
|--------------|--------------|
| ① 1時間未満      | ④ 3時間以上4時間未満 |
| ② 1時間以上2時間未満 | ⑤ 4時間以上5時間未満 |
| ③ 2時間以上3時間未満 | ⑥ 5時間以上      |
- Q16. 指導活動の場所について、主として指導活動している場所はどこですか。(主なものを1つ選ぶ)
- 1.
- |          |            |
|----------|------------|
| ① 公共施設   | ⑤ 個人施設     |
| ② 学校施設   | ⑥ 空地・神社等の庭 |
| ③ 職場施設   | ⑦ 野外(海・山等) |
| ④ 民間営利施設 | ⑧ その他( )   |
2. それは定期的な活動の拠点となっていますか。
- |         |          |
|---------|----------|
| ① なっている | ② なっていない |
|---------|----------|
- Q17. 指導の謝金について、Q12の1、Q12の2、Q12の3の各々の立場から答えて下さい。
- |           |            |
|-----------|------------|
| 1. もらっている | 2. もらっていない |
|-----------|------------|

\* 上記 Q17 の 1 で「もらっている」と答えた人は次の 2～5 まで答えて下さい。「もらっていない」と答えた人は 6 に答えて下さい。

2. もらっているとすれば 1 時間当りに換算すればそれはいくらですか。
  - ① 250 円未満
  - ② 250 円以上～500 円未満
  - ③ 500 円以上～750 円未満
  - ④ 750 円以上～1,000 円未満
  - ⑤ 1,000 円以上～1,500 円未満
  - ⑥ 1,500 円以上～2,000 円未満
  - ⑦ 2,000 円以上～2,500 円未満
  - ⑧ 2,500 円以上
3. その謝金の内容は次のどれですか。
  - ① 純粋な指導謝金のみ
  - ② 交通費と指導謝金の両方
  - ③ 交通費のみ
  - ④ その他 ( )
4. その謝金は主にどこからですか。(主なもの 1 つだけを選ぶ)
  - ① クラブ会費・運営費等から
  - ② 体育協会・競技団体から
  - ③ 支援・後援団体 (PTA・スポーツ育成母集団・企業等) から
  - ④ 行政当局から
  - ⑤ その他 ( )
5. 謝金の支出については、何かのきまりできめられていますか。
  - ① きまっている
  - ② きまっていない
  - ③ わからない
6. 謝金はもらっていないが、特に指導活動にいて考慮されているものがありますか。
  - ① ある → その内容 {
  - ② ない }

Q18. 指導にあたりその活動経費を支出することがありますか。

1. ある
2. ない

\* 「ある」と答えた人は次の問に答えて下さい。

2. それはどれくらいですか
  - ① 謝金のうち一部を支出する
  - ② 謝金とほぼ同額を支出する
  - ③ 謝金よりも支出することが多い
  - ④ もっぱら支出するだけ

Q19. あなたはスポーツ指導員としての資格を有効に生かしていますか。該当するもの 1 つを選んで下さい。

1.
  - ① 大いに生かしている
  - ② あまり生かしていない
  - ③ 無効に等しい
  - ④ その他 ( )

\* 上記 Q19 で「②あまり生かしていない」「③無効に等しい」のいずれかに答えた人は次の問に答えて下さい。

2. その理由は何ですか。(主なものを 1 つ選ぶ)
  - ① 経済的に負担が多すぎる
  - ② 時間的に負担が多すぎる
  - ③ 身体的に負担が多すぎる
  - ④ スポーツ指導員としての仕事がはっきりしないので
  - ⑤ 資格が必ずしも十分理解されていない
  - ⑥ 自分の技術が生かせない
  - ⑦ その他 ( )

Q20. 日本体育協会公認のスポーツ指導員の資格取得の効果について、あなたにとって資格を取得したことが指導活動上で効果がありましたか。

1. ① あった
- ② なかった

2. 上記 Q20 で「①あった」と答えた人は、それはどんなことですか。(主なものを1つ選ぶ)
- ① 資質の向上に役立った                      ④ 謝金がもらえるようになった  
 ② 社会的に信頼が得られるようになった      ⑤ スポーツ関係団体内での地位の向上に役立った  
 ③ 指導を依頼されることが多くなった      ⑥ その他 (                      )
- Q21. 今後、あなたがスポーツ指導員として指導活動してゆく場合に特に要望したいことがありますか。あればそれはどんなことですか。該当するもののすべての番号にしるしをつけて下さい。
1. 資格認定制度の確立
  2. 報酬基準の確立
  3. 指導活動に必要な情報の提供
  4. 指導活動に必要な研修会、講習会の開催
  5. 指導者の相互連携をはかるための組織の確立
  6. 活動に必要な施設の整備、確保
  7. 活動に必要な用具のあっせん
  8. 行政当局の協力、援助
  9. 指導活動の災害補償制度の確立
  10. 指導活動についての親や地域の理解
  11. スポーツ指導員の指導活動範囲の明確化と位置づけ
  12. スポーツ指導員と各市町村教育委員会並びに各種競技団体との相互協力、調整をはかるための連絡機関の設立
  13. その他 (                      )
- Q22. あなたがスポーツ指導員の資格取得の経緯について次の中から該当するもの1つを選んで下さい。
1. 地域市町村体育協会よりすいせんされて
  2. 地域スポーツ振興会よりすいせんされて
  3. 地域市町村教育委員会よりすいせんされて
  4. 地域市町村競技団体よりすいせんされて
  5. 小・中・高体連よりすいせんされて
  6. レクリエーション関係団体よりすいせんされて
  7. 会社、その他職域関係よりすいせんされて
  8. 個人で
  9. その他 (                      )